

# 2016年度 出版会 自己点検・評価報告書

## 基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画	
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか</b>					
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	<p>明治大学出版会（以下「出版会」という。）は、「本大学の学術研究成果を出版物として広く社会に公開することにより、本大学の教育研究活動の活性化を図るとともに、学術・文化の振興及び社会の発展に寄与すること」（「明治大学出版会規程」）を目的として、2011年4月に創設された。言い換えるなら、良質な図書の刊行を通じ、本学の教育、研究活動の活性化を図ると共に、アカデミックステータスを向上させることを目的としている。</p> <p>この目的の下に、“専門的研究に基づく学術的教養書”のシリーズとして2011年度に「明治大学リバティブックス」、2013年度に「La science sauvage de poche」を発刊し、明治大学に関連する図書の適宜刊行と合わせて、2016年度までに合計22冊を刊行した。今後も年間4冊の刊行を目指し、同様の出版活動を展開する。</p>				
<b>(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>					
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	<p>出版会編集委員会（以下、「編集委員会」という。）において、個々の出版企画が出版会の理念及び方針に合致するように提案されているかを検討した上で、各企画の刊行を決定している。</p> <p>また、刊行物に関する編集委員会内規を逸脱しない範囲で、上記目的に応える形で新機軸を出せないか、随時検討をしている。</p>	<p>刊行企画については、企画書提出段階で編集委員会において審議を行ったのち、採択されたものについては、編集委員2名が原稿を精査し、その結果を同委員会に報告することとしている。その報告をもとに改めて審議し、その結果を著者にも伝えることにより、最終的に良書の刊行へと繋がる仕組みを確立している。</p>		<p>現在、本体価格・部数の決定に関しては、執行部会で審議・決定することとしているが、今後は企画から刊行までの実質的な審議を行っている編集委員会からの意見も踏まえて、刊行部数、本体価格を審議・決定し、最終的に運営委員会に報告し、承認を得るようにする。</p>	

# 2016年度 出版会 自己点検・評価報告書

## 基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
<b>(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか</b>						
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。  ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	出版会長は運営委員長を、出版会副会長は編集委員長を兼務している。出版会のもとには、「明治大学出版会規程」及び「明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ」に基づき、運営委員会、編集委員会及び執行部会が設置されている。 理念・目的との適合性としては、運営委員会は専任教員を中心に選出されるが、教務担当常勤理事及び学務担当常勤理事がオブザーバーとして会議に出席することで、大学の方針に沿って適切に運営されているかを検証している。編集委員会は、学外有識者を委員に加えることで、学外での評価に耐えうる出版企画を検討する体制となっている。 また、編集委員会が検討した刊行企画に対して、運営委員会が学術の進展や社会の要請との適合性を検証できるよう組織されている。	編集委員会ならびに執行部会での議決事項は速やかに運営委員会へ報告することが義務付けられており、社会からの要請と教育との適合性の確認をおこなっている。 また、2015年度に出版社の営業経験者を学外有識者として、編集委員に任命したことにより、編集だけでなく、刊行書籍の継続的な管理についても実務的なアドバイスを受け、適切に管理している。	事業の実施状況を鑑み、必要があれば組織の構成と連携を見直す。			
<b>(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか</b>						
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織・権限・手続きを明確にしているか。  ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	運営委員会及び編集委員会において、会議開催時に検証を行っているほか、自己点検・評価報告書や次年度計画書作成に際して、総合的な検証を行っている。 2013年度には、定価・部数等の決定を迅速化するために、執行部会を設置し、委任された事項について、迅速に審議・決定している。	2016年度は、増刷の可否及びその部数に関する事項を、執行部会の委任事項に加えたことにより、増刷についての意思決定プロセスが明確になった。	今後も出版会各委員会で責任・権限を分担し、出版会組織と事業の有効性を検証し、善後策を講じていくための組織連携を、さらに明確にしていく。			

# 2016年度 出版会 自己点検・評価報告書

## 基準 8 社会連携・社会貢献

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明	評価		発展計画		
	C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか						
a ●方針に沿って、社会連携・社会貢献を推進しているか。	出版会の方針に基づき、本学教員の研究成果を中心に、2016年度までに計22冊を刊行した。刊行書籍については、書評依頼や広告掲載を通じて広報を行っている。 編集経験と業務知識が豊富な特別嘱託職員を編集担当者として配置し、良質な書籍を刊行することで、本学の研究成果等を発信することに貢献している。 また、出版会での責任主体、組織、権限等について、各委員会で検証しながら、改善を重ねて業務を遂行している。	2016年度は書籍4冊を刊行したほか、株式会社明大サポートの協力を得て、全国校友大会・ホームカミングデーでの書籍の販売やリバティアカデミーでの関連講座などでチラシの配布をおこない、学内外への広報を積極的に実施し、刊行書籍がより多くの読者のもとに届くよう、販促・広報活動をおこなった。	刊行書籍の分野に偏りがあるため、今後は幅広い読者層に向けて、書籍を発信していくよう、多岐に渡る分野の書籍を刊行していくことが必要であり、これまで以上に執筆者の発掘や、編集企画の立案を積極的におこなうことが必要である。	一般読者層に広く受け入れられる書籍の刊行を目指し、企画内容を精査した上で、刊行していく。	学内の研究者情報等をもとに、執筆者の発掘をおこない、継続的に良質な書籍を刊行する。	刊行書籍の内容に応じて、編集業務委託をおこない、幅広い分野の書籍を刊行していく。
b (検証システムと改善実績) ●社会連携・社会貢献の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させ、改善につながっているか。	「明治大学出版会規程」及び「明治大学出版会の執行部会設置に関する申合せ」に基づき、運営委員会、編集委員会及び執行部会を設置し、組織の権限や手続きを規定している。	2016年度は4冊の増刷を実施したが、基準2(2)に同じ。		今後も出版会各委員会で責任・権限を分担し、出版会組織と事業の有効性を検証し、善後策を講じていくための組織連携を、さらに明確にしていく。		

# 2016年度 出版会 自己点検・評価報告書

## 基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b>						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	年に1回、運営委員から1名を自己点検・評価担当として選出し、この担当委員を中心に評価報告書を作成している。内部質保証の方針と手続きについては、運営委員会において方針を決定し、編集委員会を中心に実行し、運営委員会においてチェックしている。					
<b>(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか</b>						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	内部質保証の方針と手続については、運営委員会において方針を決定し、編集委員会を中心に、実行している。 さらに編集委員会に学外有識者委員が参加することにより、外部からの視点で刊行企画等を検討している。	運営委員会が予算や事業内容を検証し、編集委員会が刊行企画やデザインなどを検討し、分業体制を明確にすることにより、良質の書籍刊行を効率よくおこなうことができた。		引き続き、運営委員会での事業内容の検証や、編集委員会での刊行企画検討を厳密に実施する。		
<b>(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか</b>						
a ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）およびAction（改善）の具体的内容・工夫 <参考：以下の事項に関して、関連するものについて記述する> ①組織・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実 ②教育研究活動のデータベース化の推進 ③学外者の意見の反映 など	自己点検・評価の結果は、出版会構成員で共有し、次年度の年度計画に反映させている。2014年度の自己点検・評価のうち、編集委員会の学外有識者枠の欠員については、2015年6月に委員を任命し、改善した。 刊行企画の決定に際しては、編集担当者と編集委員のうち2名が原稿の精査を行い、その結果を編集委員会で審議している。その際の審議内容は執筆者に報告し、それに従って期日までに修正原稿が提出されない場合は、入稿を許可していない。	学外から編集委員を迎えたことにより、営業・販売の視点からも企画を検討することができるようになった。 編集委員会での刊行前に、編集委員2名が原稿の精査を行うこととしている。その結果を改めて審議し、刊行の可否を決定することで、出版会の理念が適切に実現されているかを慎重に検証している。	限られた人数の編集委員では、すべての分野の原稿を判断することは難しい。より広い分野の専門家の意見を聴取することができるよう体制を整備する必要がある。	今後も出版会各委員会で責任・権限を分担し、出版会組織と事業の有効性を検証し、善後策を講じていくための組織連携を、さらに明確にしていく。		